



## ちちぶの医療現場から



秩父郡市薬剤師会  
四方田 真一 会長

市民の皆さんにとって、一番関心のある『ちちぶの医療』。  
日夜、奮闘されている病院の現状についてシリーズでお伝えします。  
第7回目は、【秩父郡市薬剤師会の活動について】秩父郡市薬剤師会 四方田会長です。

### ◆秩父郡市薬剤師会の歴史と活動

平成31年で、秩父郡市薬剤師会も創立70周年を迎えようとしております。また平成元年より、市立病院の院外処方箋を受けるため、会営の薬局を開設して30周年を迎えることとなります。これもひとえに市民の皆さんや関係各位のご指導・ご鞭撻の賜物と厚くお礼を申し上げます。その当時は全国的にみても、公立病院が院外処方箋を発行することは珍しいことでした。薬局でも処方箋を受けることは少ない時代です。そのため、どこの薬局でも処方箋を受け付けられるよう、会員薬剤師の研修を行い、備蓄センターを設置し対応してきました。また、病院内にFAXコーナーを設置し、行きたい薬局に処方箋をFAXすることで、待ち時間なく薬を受け取れるサービスも行っています。現在では、小鹿野町、寺尾、日野田町、影森にも店舗を構え処方箋だけではなく、薬剤師の居宅への訪問指導、管理栄養士の訪問指導、在宅介護支援センターの設置など、介護サービスにも力を入れています。

### ◆休日診療所と二次救急輪番制への対応

日曜・祝日の市立病院の救急輪番時には会営の薬局に会員薬剤師も勤務し対応していました。休日診療所の処方箋も、市内の会員薬局が輪番で開局し対応していました。

平成22年より、休日診療所の処方箋は近くの薬局で対応して欲しいとの要望もあり、日曜・祝日のみ近くのアサヒ調剤薬局をお借りして、会員薬剤師が処方箋に対応することになりました。今までの輪番の対応では、具合の悪い患者さんが遠い薬局まで足を運んだり、薬品の在庫がなかったりとご不便をおかけしてしまいましたが、この対応によりそのような問題が解消されました。

同じ年に、市立病院の二次救急の対応で、準夜帯の開局も始めました。受診者の多い22時までの対応となりますが、火・木・金曜日と、土・日曜・祝日は輪番制への対応を行っています。それまでの夜間は、病院内で薬が出され、限られた薬剤での対応しかできなかつたようですが、この対応により医師の処方通りの薬剤、また小児の薬剤にもしっかり対応できるようになりました。

### ◆秩父地域の薬局と薬剤師の現状

しかし、秩父地域では、医師同様、薬剤師も不足しています。これらの救急医療への対応も日常業務に加えて、続けての夜間勤務や休日・祝日対応などの業務に当たらなければなりません。また、冬場など救急外来が多い季節は、複数人の薬剤師で対応しなければ間に合いません。このように、勤務薬剤師や会員薬剤師の皆さんには大変負担をかけてしまっているのが現状です。



また、秩父地域では人口に対してドラッグストアが乱立して飽和状態となっています。以前は町の薬局で相談しながら購入していた医薬品が、安売りされてしまったり、ネットで購入できてしまいます。処方箋の医薬品も一般の医薬品も使い方や飲み合わせを間違えると重大な健康被害を引き起こしかねません。しっかり薬剤師から説明を受け、安全に服用することが大切です。そのためにはかかりつけ薬局や薬剤師を持ち、薬だけではなく健康の相談などにも活用していただきたいと思います。

### ◆最後に

救急医療は行政や医療関係者全体で連携をとり協力していかなければ成り立ちません。秩父郡市薬剤師会としても微力ではありますが、秩父の救急医療体制を維持していくために全力で取り組んでおります。今後さらに秩父郡市医師会、秩父郡市歯科医師会等の多職種と行政で、ともに協力し合い秩父地域で安心安全な医療が提供できるよう、努力してまいります。

## かかりつけ医・ かかりつけ歯科医 をもちましよう！

「かかりつけ医」とは、家族の健康を把握し、体調不良や病気にかかった時に気軽に受診できる地域の病院・診療所（医院）の医師のことです。自宅の近くにかかりつけ医やかかりつけ歯科医をもつと、いざというときに安心です。「体調がすぐれない」と思ったら、まず「かかりつけ医」を受診

## 内閣総理大臣表彰



村山 勇治 氏  
(下宮地町)

村山氏は、現在全国手をつなぐ育成会連合会副会長、埼玉県手をつなぐ育成会理事長、(福)清心会の理事長として尽力され、特に転換期の障害者福祉の中で統率力を発揮したことが認められ、12月の「障害者週間」関係表彰式で内閣総理大臣より表彰されました。

してみてください。医師と顔見知りになって病気の相談や健康管理をしていきましょう。

また、「かかりつけ歯科医」を持つことで、定期的に歯の健康をチェックしてもらいましょう。

県内の医療機関や薬局の情報を知りたいときは、埼玉県印の「埼玉県医療機能情報提供システム」をご利用ください。場所や診療科目・時間などの条件を入力すると、県内の約1万か所の医療機関や薬局を検索できます。

〔埼玉県医療機能情報〕で検索  
問 地域医療対策課 ☎22-2279

## 地域医療講演会

### 「住み慣れた地域の医療・ 介護の上手な利用の仕方」

救急とこれからの医療についてや、介護で知っておいてほしいことについて、わかりやすくお話しします。

と き 3月13日(火)

午後2時～3時30分

と ころ 歴史文化伝承館1階研修室

講 師 市立病院地域医療連携室

神山 英範室長(医師)・持田 功

子専門員

定 員 90人(先着順・参加無料)

申 3月6日(火)までに☎で地域医療

対策課(☎22-2279)へ



「和を以って  
貴しと為す」

## 秩父の大地、その恵み

市長 久喜 邦康

節分を過ぎたとはいえ、秩父の冬は「からっ凍み」といわれる言葉どおり、乾燥した底冷えする寒さが続いています。厳しい寒さは、南に高い山々がそびえ、北風が吹きこむ地形が大きく影響しています。

また、秩父で見られる気象現象の「逆転層」や「冷気湖」は、盆地特有のもので、昨日の暖気が上空に残り、地表近くの寒気が上昇できないためにおきるもので、日夜の寒暖差の大きさも、秩父の大地、地形が大きく影響しているものと思われれます。

この寒暖差や水、農作物などを



利用して、秩父には、おいしいお酒がたくさん生まれています。日本酒はもとより、焼酎、ウイスキー、ワイン、そして最近ではビールも地元産が登場し、今や秩父は「アルコールの聖地」ともいえそうです。

また、秩父の大地を潤す豊富な森林資源も最近では、都内での建築、200年生の森づくり、木のおもちゃ(ウッドスタート)としても大いに注目を浴びてきています。さらに皆さんがご存じのとおり、楓の樹液を使ったお菓子や飲み物なども大人気となっております。秩父の大地の恵みをたくさん感じることが出来ます。

秩父の大地に寄り添い、ともに生きていく「ジオパーク秩父」を楽しむことで、幸せを感じる事が出来ます。

「ジオパーク秩父」は多くの市民の皆さんの力で支えられています。いま一度、秩父の大地を見直し、保全し大切に育んでまいりましょう。

## お気軽にお越しください！ ふらっと市長室

- 2月20日(火)  
9:00~10:00 大滝総合支所  
11:00~11:30 本庁舎1階
  - 3月20日(火)  
9:00~10:00 荒川総合支所  
11:00~11:30 本庁舎1階
- ※日程は変更となる場合があります。  
問 秘書広報課  
☎22-2505